

横浜ボートシアター創設35周年と 遠藤啄郎氏の米寿を



祝う会

2016年6月11日(土) 15時~18時(開場14時30分)

[会場] BankART Studio NYK 2F [会費] 5,000円
※要申込

[申込締切] 2016年6月7日(火)

[お申込・お問い合わせ]

横浜ボートシアター創設35周年と遠藤啄郎氏の米寿を祝う会 事務局

TEL 080-6737-5208 FAX 03-3761-6358

E-mail: yokohama.boat.theatre@gmail.com



呼びかけ人 (五十音順)

赤井田朋子、東敬一(演出家、CARATプロジェクトカンパニー主宰)、新井敦子(ヨガ講師)、新井純(女優)、池袋コミュニティカレッジ 遠藤教室の生徒一同、一宮 均 (PAW代表)、今井嘉江(一般社団法人 自在閣内オフィス)、入野智江(南インド古典劇俳優、音楽家)、岩田幹男、上田美佐子(シアターX芸術監督)、A.A.Gde Bagus Mandera (バリ舞踊家・演奏家)、遠藤敦司(放送作家、前橋朗読研究会『BREATH』代表、遠藤氏実弟)、遠藤 享(デザイナー、遠藤氏実弟)、岡本和樹(映画監督)、垣花理恵子(文筆家・演出家)、笠原彰二 (Feels fields企画)、語りワークショップ生徒一同、鹿目尚志(デザイナー)、川澄真知子(公務員)、菊山美聡(中学校教員)、久世公孝(高校教員)、工藤留理子(声楽家・仙台オペラ協会)、隈元信一(朝日新聞編集委員・むつ支局長)、栗原彬(政治経済学者)、Keiko Mandera (バリ島ゲストリレーションコーディネーター)、ケイ タケイ(舞踊家、振付家)、「恋に狂ひて」出演者一同、小島有子(高校教員)、齋藤 朋(プロデューサー、マルメロ)、佐藤美智子(女子美術大学専任講師)、佐々波雅子(舞台美術・装置家)、志賀重仁(ルーマニア語通訳)、下野和子(遠藤氏小学校同級生)、新堂 猛(株式会社メジャーリーグ)、鈴木美恵子(シアターねこ代表)、説経節政夫(説経節)、高須謙生(藤沢遊行フォーラム事務局長)、高野邦夫(美音の会)、竹内英梨奈(ジュエリーデザイナー)、竹内右史(照明家)、竹沢えり子(銀座街づくり会議、銀座デザイン業議会議事務局長)、武川貴美子(銀座井上画廊)、橋 政愛(音楽家、東京楽竹団代表)、丹下 一(俳優・演出家)、張記小籠包、塚田千恵美(現代人形劇センター理事長)、坪井けいこ(かりん社代表)、(特非) 夢ホール市民協議会 夢つくりあなん、富田美行、鳥居 誠 (SEIBI工房、Bali Gamelan Club)、中村桂子(生命誌学者、JT生命誌館館長)、中村孝男(人形劇団ひとみ座座長)、中村 實、西新井禁煙園基クラブ、西上寛樹(脚本家)、沼尻彦彦(ケララの風II)、野口 英、野村 梢(象の鼻テラス)、野村羊子(音楽家)、深田隆之(映画監督)、藤原ちから(批評家、BricolaQ)、古屋 均(写真家)、Bob Leenaers (大正大学客員教授、Redたんぼ有限公司)、堀尾幸男(舞台装置家)、牧野英治(鍼灸師)、松本邦江、三津 久(舞台監督)、三村正次(シアターX)、むゆうじゅ(オディッシーダンス 福島まゆみ、桐山日登美)、森まゆみ(作家・編集者)、森田守恒(舞踊家、振付家)、山下陽子、山本のりこ、山本 唯、藪下 満(音響建築家)、湯浅順子(バレエ講師)、吉益宏行(鍼灸師)、吉見俊哉(東京大学教授)、横道文司(元・国際交流基金職員)、横浜ボートシアター一同

ご挨拶

仮面劇『小栗判官・照手姫』から最新作・説経「愛護の若」より『恋に狂ひて』まで、独自の語り劇世界を築き、国内外で高い評価を受けてきた横浜ボートシアターは、今年、旗揚げから数えて35周年を迎えました。また、代表の遠藤啄郎氏は、めでたく「米寿」を迎えることができました。

それぞれ長きにわたり充実した活動を続けることができたのも、これまで創作を共にした仲間や、ご支援、ご鑑賞いただいた皆様のお力添えによるものです。御礼を申し上げますとともに、この二重の慶びを、多くの方とともにお祝いしたいと考えています。

当日、船劇場をとくに臨む会場では、これまでの写真やポスター、映像等を展示しつつ、祝辞や演奏、飲食でにぎやかに交流・交歓をしたいと思っております。まだ横浜ボートシアターの公演をご覧になっていない方も歓迎します。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●事前申込のお願い

参加ご希望の方は
6月7日(火) までに
 必ず表面に記載の電話、
 ファックス、またはメールにて、
事務局までご連絡ください。



遠藤啄郎 えんどう・たくお 横浜ボートシアター

1928年12月 神奈川県平塚市生まれ。東京芸大油絵科卒。

1952年よりラジオ・オペラ・ミュージカル・人形劇・舞踊・演劇等の脚本を手掛ける。1967年 代々木小劇場において、人と人形の劇『極楽金魚』作・演出。

1971年 青年座『極楽金魚』、結城座『ゴリラ・ゴリラ』作・演出。この2作品でフランス・ナンシー演劇祭に参加。

1975年 劇団「太陽の手」結成。『極楽金魚』を新演出、日本各地を巡演。フランス・ナンシー演劇祭にて『タヤけぐるみの歌』初演。同時に『極楽金魚』をフランス、スイス、イタリアにおいて巡演後、パリ・オルセエ劇場にて一ヶ月間上演。帰国後、劇団「太陽の手」解散。1981年以降は、劇団略歴を参照。

ほか、舞台用創作仮面のデザイン、製作。現代の「語り」芝居をライフワークとしている。多摩美術大学映像演劇科、日本オペラ振興会、オペラ歌手育成部、桐朋学園大演劇科などでの講師を歴任。

著作には『極楽金魚』（フレーベル館）、写真集『横浜ボートシアターの世界』（リポポート）、脚本集『仮面の聲』（新宿書房）など。第18回伊国屋演劇賞、横浜文化賞受賞。

●劇団HP：www.yokohama-boattheatre.org

1981年、横浜元町裏を流れる中村川に係留する木造ダルマ船を改造した劇場を拠点に活動を開始する。

以来、“アジア”をテーマに『小栗判官・照手姫』『マハーバーラタ〜若きアビマニユの死〜』『マハーバーラタ〜王サルヨの婚礼〜』インドネシア芸術大学 (Institut Seni Indonesia) との合同創作『耳の王子』などの作品を発表し高い評価を受ける。

木造ダルマ船を改造したふね劇場は沈没するも、現在鋼鉄の船を改造したふね劇場で、2006年には、生命誌学者・中村桂子氏との共同企画で“語る科学”をテーマに『賢治讃え』を発表するなど、新たなテーマを模索しながら活動をしている。

劇団創設35周年+遠藤啄郎米寿
 記念公演

説経「愛護の若」より

恋に狂ひて

2016年7月1日(金)~10日(日)

KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ



1.「小栗判官・照手姫」/2.「若きアビマニユの死」/3.「耳の王子」/4.「王サルヨの婚礼」/5.「水仙月の四日」/6.「説経「愛護の若」より「恋に狂ひて」